

ジビエ処理施設を中心としたジビエの利活用(静岡県富士宮市)

- 大部分を埋設処理していたシカの捕獲個体をジビエとして有効活用するため、富士宮市は平成29、30年度に交付金を活用して民間事業者による食肉処理施設(2か所)の整備を支援
- 各食肉処理施設では、発生する廃棄物量を減少させるため、端肉を使用した犬用ジャーキー等を商品化

取組内容

- 市内でのシカの被害防止目的の捕獲頭数は年間約800頭で、ほぼ、埋設処理していたが、交付金を活用し、2地区にジビエ処理施設を整備
- 当該処理施設事業者も猟友会とともに市協議会メンバーとして活動



富士山麓ジビエ(富士宮市上条)
年間処理頭数 150頭



朝霧高原ジビエ(富士宮市麓)
年間処理頭数 180頭

- ジビエ肉は、自社のキャンプ場での販売のほか、市内外の飲食店で活用
- ジビエ肉としてだけでなく、ペットフードや革クラフトなどを開発
- 朝霧高原ジビエは、県内2例目となる国産ジビエ認証を取得

成果

- 捕獲者、ジビエ処理施設運営者、行政を協議会とし、地域全体で鳥獣被害対策を推進する体制が確立
- ジビエ肉、ペットフードのふるさと納税品への活用を含め、市の新たな特産品として利活用



今後

- 猟友会員へジビエ利用可能な捕獲方法の技術指導等を進め、処理量の増加を推進

ジビエ処理施設を中心としたジビエの利活用(静岡県富士宮市)

きっかけ・背景

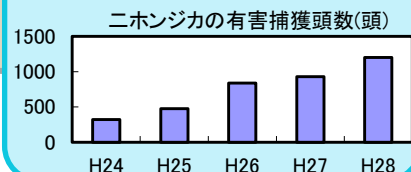
- ニホンジカの個体数増加による林業被害の拡大
- 朝霧高原の牧草を始めとする鳥獣被害金額の増加

Step1 捕獲個体の増加(H26)

- 猟友会員を中心に実施隊を組織
- 交付金を活用して、実施隊にワナを貸与し、捕獲を促進

課題

- 捕獲頭数増加に伴う廃棄物処理量の増大

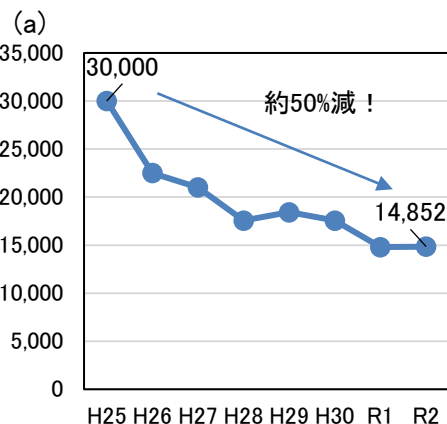


Step2 ジビエ処理施設の整備(H30)

- 捕獲個体の活用のため、ジビエ処理施設を検討
- 交付金を活用し、2地区に整備

Step3 ジビエの活用(R元)

- 市内の飲食店や旅館組合でのジビエ活用に向け、研修会を開催
- ふるさと納税の返礼品として、ジビエ肉をPR



ニホンジカによる農作物の被害面積が減少



飲食店や旅館組合に対し、料理人を講師にジビエの利活用の研修会を開催

交付金を活用し、国産ジビエ認証を朝霧高原ジビエが取得(令和3年3月31日付け、県内2例目)

取組の特色

- ジビエ処理施設が自社で運営するキャンプ場にて、ジビエ肉、ジビエ料理を提供
- ジビエ処理施設の運営会社は、ネイチャーガイドとして、ジビエを通じた野生鳥獣との共生や植生環境の視点で説明が可能

取組による成果・効果

- 市の農業被害金額は減少傾向(H25年:1,219万円 → R3年:404万円)
- 被害防止目的の捕獲個体は、市内での埋設処理から、ジビエ処理施設への持込頭数が増加
- ジビエ肉の残渣については、ペットフード等へ加工され、皮は商品化や加工体験に活用



ペット用シカ肉ジャーキー